

地域連携室

地域連携副室長 武田美幸

1 部門目標

- 1) 地域に密着した医療サービスを提供するため、地域の医療機関との情報交換や連絡調整を行い、病診連携・病病連携を推進する。
- 2) 入退院支援の相談機能の充実
 - ・病棟担当制 看護師/社会福祉士
 - ・入院前からの支援強化
- 3) 制度医療に関する相談機能の充実
 - ・FAST 及び助産制度利用

2 業務体制・スタッフ

室長（医師）1名

看護師3名（副室長1・主任1含む）

社会福祉士4名（会計年度任用職員1含む）

非常勤事務員4名

3 業務実績

(1) 病診連携

表1 年度別紹介患者統計（件）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
紹介患者登録	9330	9394	8718	9214	9813	8997
千葉市内	7513	8066	7320	7542	8211	7608
登録医	2979	2812	2522	2586	2798	2424

表2 医療機器の共同利用

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
MR	229	260	180	207	153	188
CT	65	98	83	50	57	61
内視鏡	51	48	18	20	6	3
脳波	107	90	102	91	77	59
心理テスト	11	11	17	11	16	20
視野検査	11	3	11	12	21	13

表 3. 予約方法 (件)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
FAX 予約	1657	777	599	448	413	452
電話予約	1753	2880	3313	3379	3379	3832
電話再診予約					26	605

表 4 紹介率と逆紹介率の推移 (%)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
紹介率	59.6	66.9	65.3	68.7	72.4	77.4
逆紹介率	89.7	73.5	52.0	49.3	58.9	70.3

表 5 登録医 医療機関数 (施設件数)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
登録医療機関	192	178	170	168	175	170

(2) 相談対応・退院調整

表 6 対応件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
入退院支援加算 1		779	468	507	486	635
入院前介入				62	54	6
入退院支援加算 3		204	185	199	226	234
退院時共同指導料 (うち 3 者以上)		11 (2)	13 (1)	25 (8)	8 (4)	9 (1)
介護支援等連携指導料		185	203	111	96	55
連携機関・事業所との 面会		284	359	313	413	240
FAST 件数	47	106	115	139	184	276
助産施設相談件数	17	28	19	29	27	27

* 令和元年度助産相談件数訂正変更あり

(3) 地域医療支援病院に関する業務

医療法に基づき、地域医療支援病院運営委員会を開催。施設要件である地域への医療関係者に対する研修・講演会開催広報を行った。

COVID-19 感染拡大の影響で、令和 2 年度地域医療支援病院運営委員会は書面開催となった。

表7 令和2年度 地域の医療従事者等に対する研修・カンファレンス実績

公開カンファレンス	小児・内科他 全7回	院外参加者 102名 院内参加者 112名
感染防止地域連携合同カンファレンス	4回	院外参加者 25名 院内参加者 18名

(4) その他の活動

- 千葉県がん診療連携協議会（院外）への参画
- 千葉県児童虐待対策研究会（院外）への参画
- 千葉市要保護児童対策実務者会議（院外）への参画
- 地域医療推進委員会（院外）への参画
- 各区地域医療介護推進会議（院外）への参画

4 1年間の総括

近年逆紹介率が伸び悩んでいたが、令和2年度は更に大きな上昇となった。

地域医療支援病院の施設要件の紹介率、逆紹介率共に今年度もクリアする事ができている。昨年度から支援パートナーとの協働により、地域の医療機関訪問の充実を図っており、顔の見える関係の構築を推進する事ができた。海浜病院に対する意見を吸い上げ問題点の改善を図る事で紹介率、逆紹介率の向上に繋げる事ができたと考える。

当院の登録医制度は、開院当初からの地域の医療機関との共同診療システムである。新規登録もあるが令和2年度は閉院する医療機関も多く、総数としては減少となった。しかし、登録医以外の医療連携も強化しており、スムーズな地域医療の提供ができていると考える。

予約業務については FAX 予約、電話予約ともに増加となっており、紹介状のある患者さんからの事前電話予約が定着している事で、紹介元の医療機関の負担軽減にも繋がっていると考える。

また昨年からの COVID-19 の感染対策の緊急措置対応としての電話再診予約については件数が大きく増えている。電話再診の対応を継続している事で収束が見えない中、患者・家族の不安の軽減につながったと考える

平成30年度の診療報酬改定以降、入院前からの退院支援が推奨となり、連携室でも多職種連携強化を継続している。院外においては、在宅療養を支える往診医師、訪問看護師、地域包括（千葉市あんしんケアセンター）介護支援専門員との協働による入退院支援強化を計るも、本年度は COVID-19 の感染拡大の観点から、外部機関や院外関係者との面談やカンファレンス等、対面での連携が制限され、介護連携指導料や、共同指導料の件数は大幅に減少となった。

当院は、救急医療、周産期・小児医療の役割と機能を強化している。高齢者や、小児・新生児の通常の診療だけでなく、虐待に関する相談や対応、児童相談所保護下の子供の受診相談や、助産施設でもあることから特定妊婦に関する相談も年々増加傾向である。多岐にわたる複雑な相談内容の事が多いが、相談者に合わせ、丁寧かつ迅速に適切な対応を心がけている。

地域の医療従事者等に対する公開カンファレンスや、地域医療支援病院の運営委員会については COVID-19 の影響は有るが、対面開催以外の形式で行う事ができている。今後も、COVID-19 の感染状況を

注視しながら対面形式かオンライン形式か適切な方法を検討し開催としていく。

5 今後の目標

- ・地域医療機関に対し各診療科の特徴や紹介予約等の情報発信に努め、紹介率・逆紹介率の更なる向上を目指す。
- ・院内外の多職種との関係構築を充実させ、入院前からの退院支援体制の強化に努める。
- ・少子高齢化、認知症患者の増加に対応できるよう高齢者、認知症ケアの充実した支援強化に努める。
- ・小児虐待予防、対応、助産制度利用の適切な対応に努める。
- ・従来の入退院支援の強化及び、COVID-19 入院患者の退院支援の強化を図る。
- ・電話再診のスムーズな対応に努める。
- ・近隣のクリニック、連携医療機関、後方支援病院との顔の見える関係構築の強化継続に努める。